

2006 年度 第 22 回

在日アジア人留学生への研究補助

受給生紹介



東京・三田の慶應義塾大学にて

RASAーアジアの農村と連帯する会

Rural Asia Solidarity Association

氏名 李 銀珍 Lee, Eun-Jin
国籍 韓国
大学 東京大学 人文社会系研究科 研究生



(留学目的)

私は中国文学の中で寓言文学に対して関心を持って研究している。東アジア三国の寓言を勉強する中で日本の寓言文学に対する知識が必要で東大に来ることを決めた。今後は日本人研究者による中国寓言文学の成果と日本寓言文学に対する研究をしようと思う。東大の人文系の研究業績は非常に立派だと知られているし、東大の中国文学研究室は東アジア圏の研究者たちがよくこちらに来て研究を進めているので東アジア文学を研究するのに非常に良い所だと思う。

(研究課題)

日本の寓言文学の研究を通じて日本寓言文学の個性と特性を理解して東アジア三国に現れる寓言の普遍性と特殊性を考察しようと思う。私の研究計画は次のとおり。第一、日本の中国寓言文学研究状況を調査して日本の寓言研究現況を把握する。第二、日本の寓言論と寓言作品を研究する。日本の寓言論がどんな形態に展開されたか、また日本の寓言がどんな文学的形態を持っているのかを把握することを目指す。第三、日本の寓言文学と中国の寓言文学の普遍性と特殊性を捜し出して寓言文学の位置づけを行う。

氏名 申 旻静 Shin, Min Jeong
国籍 韓国
大学 東京大学 農学生命科学研究科 研究生



(留学目的)

日本に留学した目的は、修士課程までの研究テーマである植民地下の朝鮮の農業経済史を深く研究したいということがあります。もちろん、韓国での研究も可能ではありますが、韓国での資料の制約の問題もあり、関係などから日本で研究をした方がいいと判断したこともあります。このほかにも、私の研究分野に関する日本での研究動向を把握して、研究を深めたいということがあります。

(研究課題)

私は韓国の開港（開国）以降の日韓関係について研究を進めたいと考えています。他方、韓国農業において最も重要な問題とされている土地問題についても、先に述べた日韓関係とリンクさせながら研究していきたいと考えています。そして、現段階の土地問題に取り組むためには、どうしても植民地時代の土地問題に言及せざるをえません。そのため、「植民地下の朝鮮の山間における地主・小作の関する研究一畑を中心にして」というテーマで研究したいと考えています。まだ、研究生の段階ですので、確定していませんが、かねてから問題意識をもっている分野であり、これからも進めたいと思っています。

氏名 Maimaiti Palida
国籍 中国（新疆ウイグル自治区）
大学 筑波大学 人間総合科学研究科 博士課程 4年



（留学目的）

私は 3 年間癌看護に携わった結果、中国の経済発展、人口増加などに伴い、高齢化、生活習慣病、癌などが増えていること、国民の 76%を占める農村部の人々に対して、国の健康保険制度がないため、死の寸前まで病院に行けないという悲しい現状から、国民により良い医療が保健・福祉サービスを提供できるようにすると同時に、その為の人材教育がとても大事だと考えました。母国のことだけでなく、人類の生活の質を高めるために役立ちたいという思いで、留学を決意し、留学先として、国民が平等に受けられる国民皆保険制度を持って、人類社会の平和や発展に大いに貢献している日本を選びました。

（研究課題）

研究テーマは、「看護職の職業的アイデンティティ形成に働きかける教育プログラムの開発」です。看護に興味を持ち、看護の実践に高い関心を持って入学した学生たちが実習にできるようになってから、理想と現実の差を実感し、看護職に就きたくないと考える看護学生が増える一方、新卒看護師の 1 年以内の離職率は 85%に達しており、看護師不足の一因となっています。これは、看護教育のあり方が問われる問題であり、看護教育は看護職に知識や技術の獲得以外に、自らの職業を価値付けられるような職業的アイデンティティも確立させる必要があると思います。

氏名 マスル ミジテ
国籍 中国（新疆ウイグル自治区）
大学 東京農工大学 化学システム工学科 研究生



（留学目的）

中国新疆ウイグル自治区で石油、天然ガス開発、人口増加等に伴い、砂漠化、農地の塩類集積化、大気及び地下水の汚染が深刻化している。私が日本に留学した目的は、中国の新疆ウイグル自治区の環境保全に役立てるために、大気、水、土壌等に含まれる汚染物質の処理とその分解（無害化）に関する研究をすることである。

（研究課題）

特にガスクロマトグラフ等を用い、有害化学物質の分析前処理方法の開発を行う。また有害化学物質の処理技術についても研究し、化学物質のモニタリング処理の総合的プロセスの構築を目指す。

氏名 徐 一琳 Xu, Yilin
国籍 中国
大学 早稲田大学 日本語教育研究科 博士課程 2年



(留学目的)

私は、大学で日本語を専攻し、卒業後は中国の日系企業で営業や通訳の仕事をしたり、中国人従業員に日本語を教えたりしていました。そこで多くの日本人と接することができ、日本語だけでなく、日本社会や文化なども教えていただき、自分の世界が今までになく広がった感じがしました。その時から、私は、もっと多くの中国人に日本や日本語の知識を伝えれば、両国間のコミュニケーションを促進でき、中国が日本の進んだ技術などをもっとたくさん取り入れられ、大きく発展していくと思いました。そのためには、自分の日本語を磨き、日本語教育の専門知識を学ぶ必要があります。日本での学習終了後は、中国に帰り、大学の日本語教師になろうと思います。

(研究課題)

修士課程終了時に提出した修士論文では、「主題構文の日中対照－『Xは～』文とそれに対応する中国語表現－」の題で、中国人学習者の日本語学習時に起こる「は」と「が」の誤用とその教授法に関する論述を行いました。現在もこのテーマに沿って、データ収集や予備調査を行い、研究を続けています。また、今までの研究結果を修正したり、新しい調査の結果をまとめたりし、日本や中国の学会で発表しています。「は」と「が」の使い分けは、中国人学習者にとってもっとも難しい問題の一つです。博士論文で、新たな教授・学習方法を提案したいと思います。

氏名 Ghani Parhana Ishrat
国籍 バングラデシュ
大学 埼玉大学 分子生物学研究科 博士課程 2年



(留学目的)

私はバングラデシュに生まれ、ダッカ大学生化学科を 1995 年に卒業しました。入学後、日本に留学しようとする先輩方の例を多く見ました。先生方の多くは日本へ留学したことがあり、日本の大学の博士号を持っていました。日本で勉強する人が多い理由を先生方に聞いたところ、生化学の勉強をするには、研究レベルの高い日本が最も適しているとのことでした。それ以来私は、将来日本の大学院へ入学して研究をしたいと考えるようになりました。現在下に示すような研究を行っており、さらに博士課程への進学を考えています。

(研究課題)

水中では C_3 型、地上ではクランツ構造を持った C_4 型の桿（葉はない [編者注：稲系の植物について述べているようである]）を作る *Eleocharis vivipara* を用い、その植物の環境変化＝沈水または空気中での生育に応じて異なる構造の光合成器官を作る仕組みを解明したいと考えています。

氏名 李 景林 Lee, Kyunglim
国籍 韓国
大学 東京大学 工学系研究科 博士課程 1年



(留学目的)

人口の高齢化というのは、全世界が抱えている問題であり、それに備え高齢者に関する様々な研究が行われています。韓国では人口の高齢化が急速に進んでおり、2000年度の人口センサスによると、20年後には65歳以上の高齢者の人口689万人となり、人口全体の14%を占めるものと予想されていますので、様々な分野で高齢者を対象とした研究が求められるようになる見通しです。

しかし、まだ韓国では高齢者関連研究があまり進んでいなく、特に、高齢者の照明環境に関する研究はまだ本格的に行われていないのが現実です。従って、私は、卒業後韓国に戻り、日本で学んだ知識と研究成果を活かしてみたいと思います。

(研究課題) 研究テーマ：高齢者の入居空間における深夜照明のあり方に関する研究

高齢者は、加齢に伴う健康障害や機能低下により、若年者とは異なる種々の生理的悩みをかかえている。その一つが深夜のトイレ問題であるが、一晩中少なくとも1回、多くは2～3回トイレに行く高齢者もいると言われている夜中目が覚め、トイレまで移動し、トイレに入り、ベッドまで戻り、再入眠するという一連の行動を一晩1～3回繰り返すと、その分、睡眠時間が圧迫されていることが推測される。明るすぎる照明の中移動する場合、覚醒水準の上昇とともにまぶしさといった不快感を感じることとなり、再入眠への悪影響が危惧される。しかし、もっと深刻な問題点としては、適切ではない照明環境の中、トイレまで移動すると、店頭の危険性が高くなるということである。高齢者の場合、若年者と違って、転倒してしまうと深刻な状況まで至る可能性が高いので、上記のような問題点は看過できない問題である。つまり、再入眠に支障をきたさないながら安全な移動のための視認性が確保された照明が求められるのである。最近ではこのような認識に基づき、高齢者の入居空間の照明計画についての関心も高まっており、高齢者の移動や睡眠に関する様々な研究が行われているが、高齢者の深夜の移動の行為に密着・把握し、安全な移動と心理的安心感、そして再入眠を促す照明環境に関する研究はまだ十分とはいえない。本研究は、高齢者の深夜のトイレへの移動という行為に着目し、行動の流れ（目がさめる、移動する、トイレにはいる、移動する、再入眠する）ことに抽出された問題点とそのまわりの照明環境（ベッドのまわり、トイレ）における深夜照明の実態を調べるとともに、安全な移動と円滑な再入眠を促すための照明環境のあり方を提示することを目的とする。